



Title	内陸アジア言語の研究 XVIII 裏表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 2003, 18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21899
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『内陸アジア言語の研究』 執筆要項

1. 本誌は、中央アジアと中国を中心に、東は東北アジアから西は黒海沿岸にまで広がる、中央ユーラシアの諸民族が用いる様々な言語、及びその言語で書き残された古代～近代の文献資料（出土文書・碑文・宗教典籍など）を、言語学的あるいは歴史学的に扱う論文を掲載する。
2. 原稿は未発表のものに限る。ただし口頭発表したものはこの限りではない。
3. 原稿の長さは自由である。論文の場合、刷り上がり状態で 20 ページ（400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚）を一応の目安とする。ただし、数ページ程度の研究ノートや資料紹介の類も歓迎する。
4. 原稿は、完全原稿の形で提出されたものを、フロッピーないし電子メールの添付ファイルで受け付ける。組版は Macintosh の Adobe PageMaker-J を用いて行なう。
5. 入稿について
 - 1) Macintosh 使用の場合
特に 30 ページを越える原稿については、経費軽減のため、Adobe PageMaker-J にて割付済みの原稿を入稿するのが最も望ましい。内陸アジア諸言語の転写に必要なフォントや、割付のスタイルを指定したテンプレート・組方規則などは、編集部から配布する。また、PageMaker 以外の Macintosh ワードプロソフトを利用する場合は、編集部に連絡されたい。
 - 2) MS-DOS, Windows 使用の場合
各種ワードプロソフトを用いる場合、MS-DOS テキストファイル形式に変換し、フロッピーディスクで入稿するとともに、印字した完成原稿を送付すること。ワードプロにない漢字・記号などの部分は、当該箇所を空けて朱筆で指示されたい。旧字体への変更も、必ず提出稿の段階で指示されたい。本文中の註番号は、該当箇所に (1) のように通し番号を挿入する。
 - 3) 以上はあくまでも原則である。不明の点は編集部にお問い合わせされたい。
6. 書式として、以下の統一方針を定める。
 - 1) A5 版横組み、奇数頁起こしとする。
 - 2) 句読点は「、」を用い、「、。」は用いない。
 - 3) 地の文にはつとめて当用漢字・新かなづかいを用い、旧字体・旧かなづかいの使用は引用文等で必要な場合のみにとどめる。
7. 論文末尾に執筆者の所属・肩書・専攻、表題の欧米語訳、執筆者名のローマ字表記を付記すること。
8. 原稿の締切日は毎年 3 月 31 日とする。
9. 初校は著者校正とし、再校以降は原則として編集委員の責任とする。校正はあくまでも誤植の訂正にとどめ、原文の増減は認めない。
10. 抜刷は作成しない。各執筆者には本誌 10 部を献呈する。

2003 年 7 月

執筆者紹介

森 安 孝 夫 (Takao MORIYASU)

大阪大学大学院文学研究科教授 東洋史学専攻

荒 川 慎 太 郎 (Shintaro ARAKAWA)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手 西夏語学専攻

森 部 豊 (Yutaka MORIBE)

筑波大学歴史人類学系文部科学技官 東洋史学専攻

石 見 清 裕 (Kiyohiro IWAMI)

早稲田大学教育学部助教授 東洋史学専攻

宮 紀 子 (Noriko MIYA)

京都大学人文科学研究所助手 中国語学中国文学専攻

沖 田 道 成 (Michinari OKITA)

立命館大学大学院文学研究科博士後期課程 東洋史学専攻

加 藤 聡 (Satoshi KATO)

大阪大学大学院文学研究科助手 中国文学専攻

佐 藤 貴 保 (Takayasu SATO)

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 東洋史学専攻

高 橋 文 治 (Bunji TAKAHASHI)

大阪大学大学院文学研究科教授 中国文学専攻

向 正 樹 (Masaki MUKAI)

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 東洋史学専攻

山 本 明 志 (Meishi YAMAMOTO)

大阪大学大学院文学研究科博士前期課程 東洋史学専攻

Peter ZIEME

Professor, Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften

トルコ文献学専攻

Jens WILKENS

Dr. phil., Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften

トルコ文献学専攻

内陸アジア言語の研究 XVIII

2003 年 7 月 25 日 印刷

2003 年 8 月 10 日 発行

責任編集 森 安 孝 夫 (大阪大学)
吉 田 豊 (神戸市外国語大学)
Peter Zieme (Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften)

発 行 者 中央ユーラシア学研究会
〒 560 - 8532 豊中市待兼山町 1 - 5 大阪大学文学部森安研究室内
tel: 06 - 6850 - 5103 / fax: 06 - 6850 - 5103
e-mail: moriyasu@let.osaka-u.ac.jp
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/sial/index-j.html>

取 扱 店 株式会社 朋 友 書 店
〒 606 - 8790 京都市左京区吉田神楽岡町 8 tel: 075 - 761 - 1285
e-mail: hoyubook@mbox.kyoto-inet.or.jp
株式会社 東 方 書 店
〒 101 - 0051 東京都千代田区神田神保町 1 - 3 tel: 03 - 3937 - 0300
e-mail: tokyo@toho-shoten.co.jp
〒 564 - 0063 吹田市江坂町 2 - 6 - 1 tel: 06 - 6337 - 4760
e-mail: kansai@toho-shoten.co.jp

印 刷 所 有限会社 中部ワードサービス
〒 440 - 0865 豊橋市向山台町 10 - 10 tel: 0532 - 55 - 8503
e-mail: cws@mx1.tees.ne.jp

STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES XVIII

T. MORIYASU : Obituary: James R. Hamilton (14th March 1921 - 29th May 2003)	i
S. ARAKAWA : Tangut Fragments in the Nakanishi Collection Preserved at the National Museum of Ethnology: On the Tangut Version of the <i>Ārya-Prajñāpāramitā-sañcaya-gāthā</i>	1
Y. MORIBE & K. IWAMI : Epitaph of Li Ke-yong in the Late Tang Period	17
N. MIYA : System of Translation Bequeathed by the Mongol Empire : Remarks on the Language Used in the Old Edition of the <i>Laoqida</i>	53
M. OKITA, S. KATO, T. SATO, B. TAKAHASHI, M. MUKAI & M. YAMAMOTO : Japanese Translation and Commentary of the <i>Wutai bibu</i>	97
P. ZIEME : A New Fragment of the Old Uighur <i>Vimalakīrtinīrdeśasūtra</i>	143
J. WILKENS : Studien zur alttürkischen <i>Daśakarmapathāvadānamālā</i> (1) Die Udayana-Legende	151

The Society of Central Eurasian Studies